

地域資源を循環させる堆肥システムの構築により、土壤生態系を健全に

—有機性廃棄物分解機能—

のうぎょうほうじん ゆうげんがいしゃ しぜんのうほう む かい
農業法人 有限会社 自然農法 無の会



若手農家による収穫風景



写真、無の会 HP より

代表の取組に共感した若者がメンバーに参入

自然農法無の会は、地域資源循環型農業の確立を目指し、平成17年に設立。

若手農家の育成を行いつつ、約16ヘクタールの農地において、地域の酒造会社から出る酒かす、豆腐店から出るおからなど植物性資材をバランス良く混ぜ合わせた堆肥を農地に還元し、米、大豆、野菜など年間80品目以上の作物を育てる有機農業を実践。

生産した農産物は、地域の酒造会社や豆腐店などへ販売されている。



福島県会津美里町



稲刈り後の水稻の根株(9月)このあと堆肥とすき込む



春の田起こし後の表土(5月)根株の痕跡はほぼみられない堆肥と微生物の力で有機物の分解を促進

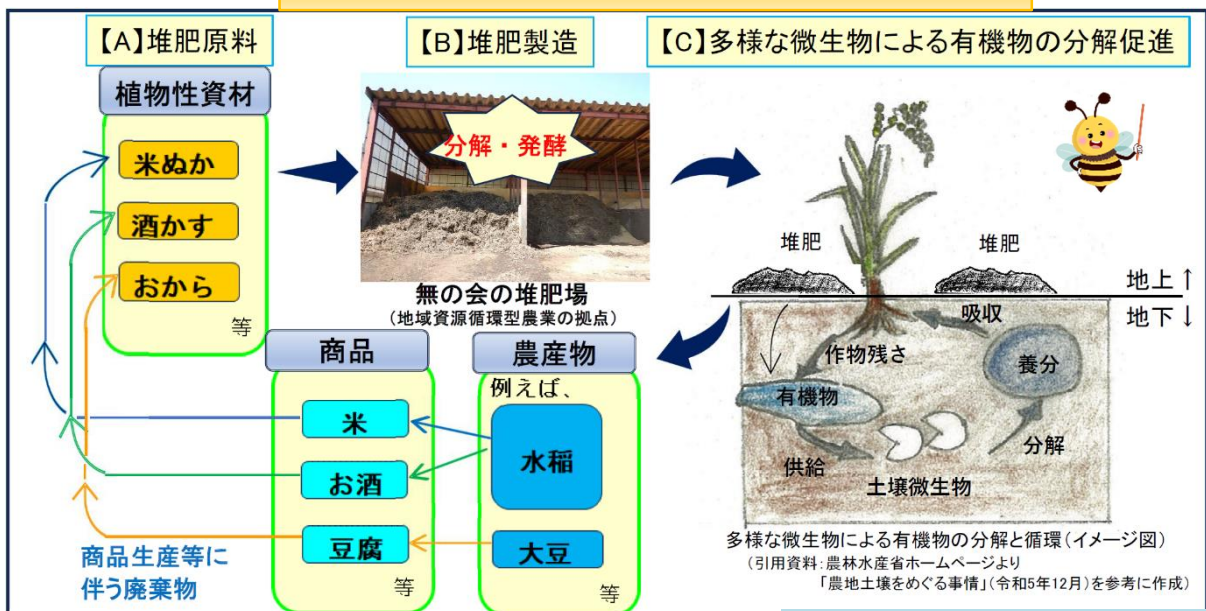
〔有機性廃棄物分解〕

地元会津地域で廃棄される植物性資材（茅葺屋根の「かや」、もみ殻、米ぬか、酒かす、おから、かんなくす等）を混ぜ合わせ、バランスの良い堆肥を田んぼや畑に還元することで、土壤微生物の多様性を高め、有機物の分解を促進させるとともに、窒素やリン酸などの養分を多く発生させ、発達した根が養分を効率良く吸収できる環境をつくる等、土壤生態系の健全性が促進され、作物と土壌が持つ本来の力を引き出すことに成功している。

〔生物多様性の保全〕

水田では、堆肥に含まれる有機物が餌となり、微生物の働きが活性することから、ミミズ等土壤動物や水生動物のカイエビ等とこれを餌とするドジョウ、カエル類、ゲンゴロウ類などが増え、さらにこれを餌とするサギ類等の水鳥も飛来するなど、豊かな生態系の形成にも大きく寄与している。

地域資源を循環させる堆肥システム（イメージ図）



東北農政局の
 一当該ウェブサイトはこちら

東北 14

《 自然農法無の会HP 》
<https://munokai.com>

令和6年3月作成